

平成 26 年 5 月 14 日

各 位

会社名 シダックス株式会社
 代表者名 代表取締役会長兼社長 志太 勤一
 (JASDAQ コード番号 4837)
 問合せ先 常務取締役 管理本部長 兼 IR 担当
 若狭 正幸
 (TEL. 03-5784-8909)

関係会社貸倒引当金繰入額（個別）の計上、特別損失（連結）の発生並びに
 平成 26 年 3 月期業績予想値と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、平成 26 年 3 月期決算（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）において、関係会社貸倒引当金繰入額（個別）及び特別損失（連結）を計上するとともに、平成 25 年 5 月 20 日に公表した平成 26 年 3 月期の通期業績予想（連結・個別）と本日公表の実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 関係会社貸倒引当金繰入額の計上について（個別）

平成 26 年 3 月期の個別決算におきまして、新規事業の立ち上げの遅れに伴い、債務超過となっている一部連結子会社に対する当社債権等について、貸倒引当金繰入額 1,009 百万円を計上いたしました。

なお、当該貸倒引当金繰入額につきましては、連結決算上相殺消去されるため連結財務諸表に与える影響はございません。

2. 特別損失の計上について（連結）

平成 26 年 3 月期の連結決算におきまして、1,218 百万円の特別損失を計上いたしました。

その主なものは減損損失 1,213 百万円であり、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、連結子会社が所有する主にレストランカラオケ事業の用に供する固定資産について減損処理を行いました。

3. 平成 26 年 3 月期 通期連結業績予想値と実績値との差異（平成 25 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	192,000	6,000	5,300	2,000	54.65
実績値 (B)	191,583	2,943	2,844	521	13.24
増減額 (B-A)	△416	△3,056	△2,455	△1,478	
増減率 (%)	△0.2	△50.9	△46.3	△73.9	
(ご参考) 前期実績 (平成 25 年 3 月期)	186,185	5,135	5,253	2,658	72.64

4. 平成26年3月期 通期個別業績予想値と実績値との差異（平成25年4月1日～平成26年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	10,000	2,500	1,900	1,700	46.45
実績値 (B)	9,589	1,460	886	784	19.92
増減額 (B-A)	△410	△1,039	△1,013	△915	
増減率 (%)	△4.1	△41.6	△53.3	△53.8	
(ご参考) 前期実績 (平成25年3月期)	9,611	2,276	1,801	1,809	49.45

5. 差異の理由

(1) 通期連結業績

売上高につきましては、北米市場におけるスペシャリティレストラン事業が、米国経済の回復基調の継続により堅調に推移し、また、為替の影響もあり、貢献しました。一方、国内市場においては、政府の金融・経済対策の効果により、景気は緩やかな回復傾向にあるものの、实体经济への波及は限定的な状況の中、レストランカラオケ事業では様々なキャンペーン企画等による既存店舗の集客に取り組んでまいりましたが、既存店お客様来店数が前期比93%程度での推移となり、当初計画を下回る結果となりました。

営業利益及び経常利益につきましては、各事業セグメントにおいて、原価管理の徹底と消耗品費を中心とした経費圧縮に努めたものの、円安基調による原材料の高騰や電力需給調整による単価アップの影響により、主に、レストランカラオケ事業の売上高減少を補うまでには至らず、また、新規事業の立ち上げにも想定より時間を要したことなどから、当初計画を下回る結果となりました。

当期純利益につきましても、上述の減損損失1,213百万円を特別損失に計上したことにより、当初計画を下回る結果となりました。

なお、翌事業年度以降につきましては、新規事業の立ち上げが軌道に乗り始めたこと及びレストランカラオケ事業においては、既存店舗のブラッシュアップに注力し、既存店舗のリニューアルやスクラップ&ビルドも視野に入れた保有資産の追及、採算性の向上等により業績の向上に努めてまいります。

(2) 通期個別業績

売上高につきましては、概ね計画通りに推移いたしました。利益面につきましては、上述の一部連結子会社に対する貸倒引当金繰入額を販売費及び一般管理費に計上したことにより、営業利益、経常利益、当期純利益の各利益項目ともに当初計画を下回る結果となりました。

以上